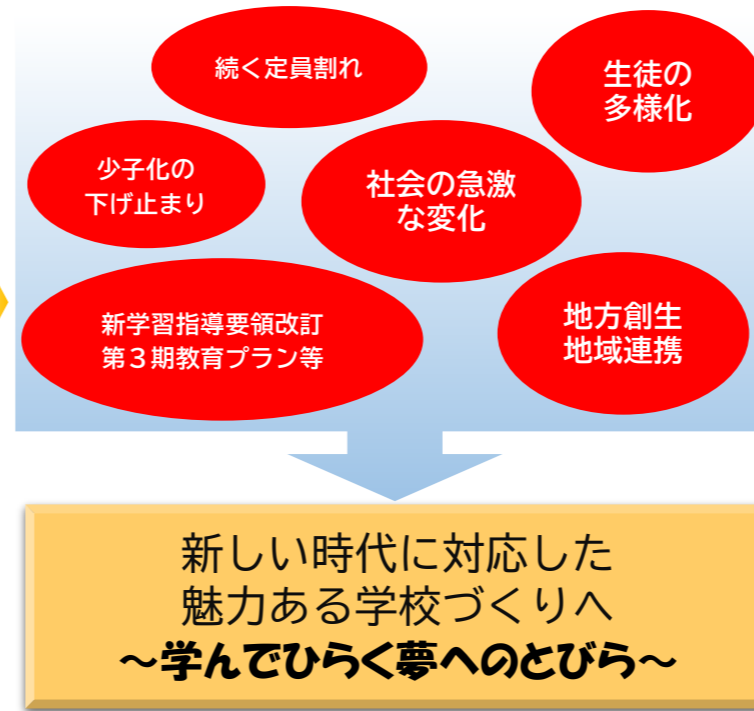


「県立高校の未来を考える～そのあり方と魅力づくり～」

「今後を見据えた4年間の取組」

再編整備終了後の県立高校の状況

- 県立高等学校再編整備等基本計画の今後の方向
 [再編統合・適正規模]:
 ○適正規模の考え方は一旦留保。これまでの再編整備の考え方から、提言期間中は魅力ある学校づくりに向けた取組を重視していく。○大規模校の学級減については、中学卒業者の動向等を見ながら引き続き検討を続けていく必要がある。
 [通学区域]:
 ○通学区域のさらなる拡大に関しては、引き続き受検者の動向を慎重に見極める必要がある。○学区外枠の拡大は当面行わず、今後の中学校卒業生数や熊本市内普通科7校の学区外合格者の状況などを注視していく必要がある。
 [特色ある学校づくり]:
 ○併設型中高一貫校は、今後の県内生徒数の減少に鑑み、中学校卒業生数や入試の動向を注視しつつ検討。1学級定員の見直しの検討が必要。○総合学科、総合選択制は、今後も制度の効果的な活用等に努める。○単位制は、ICTの活用等、時代のニーズに応じた運営を検討していく。等
- 続く定員割れ
 - ・定員割れ
 R2: 県立高校50校中38校で2,475人(H19:1,034人)
 - ・熊本市以外の地域で定員割れが進行
 熊本市内の公立高校の充足率: 97.6%
 - ・その他の公立(県立)高校の充足率: 69.0%
- 少子化の下げ止まり
 - ・中学校卒業生数は、R2.3月卒は16,156人。R9まで16,000人超が続く。その後、漸減の見込み。



高校教育を取り巻く環境

- 社会の急激な変化
 人口減少や高齢化の進展、技術革新等に伴う産業構造・就業人口の変化、社会・経済のグローバル化、地域社会の縮小等の急激な変化
 新型コロナウイルス感染症感染拡大を通じて、ICTを活用した教育の必要性が顕在化。
- 生徒の多様化
 生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等の多様化、特別な支援が必要な生徒等の増加
- 地方創生に資する地域と連携した学校づくりの必要性
 地域の人口減少、経済縮小の中、地域の将来を担う人材の育成、地域活性化等、地方創生に資する学校づくりの要請。
- 国の動向、県の方針
 [国]: 「新学習指導要領改訂」(H30)、中央教育審議会における「新しい新時代の初等中等教育の在り方」についての審議(H31)(普通科改革の提言:学際科学的、あるいは地域課題解決に向けた学びに取り組む学科の設置等)
 「高等学校等就学支援金制度」の拡充(R2.4~)
 [県]: 熊本県教育大綱、第3期教育振興基本計画(教育プラン)

すべての高校生が夢に挑戦できる魅力ある県立高校像

1 「夢を実現する力」を育む学校

- ・個に応じた確かな学力の育成、柔軟な学びの推進
- ・グローバル化に対応した教育を推進
- ・科学技術教育の推進
- ・社会的・職業的自立に向けた能力・態度を育成
- ・新たな価値を創造し、地域産業の発展に貢献できる人材の育成

2 地域で夢を拓げ、地域の未来を支える人材を育てる学校

- ・地域と連携した教育(地域に学び、地域で学ぶ教育)の実践
- ・地域に貢献できる人材の育成
- ・地域活性化や地域の課題解決に資する活動の推進

3 夢への挑戦を支える学校

- ・学校施設・設備の充実
- ・ICT環境の整備
- ・教職員の資質向上、効果的な人員配置
- ・各種制度・しくみの整備(入試制度)

魅力ある学校づくりに向けた取組の方向性

- I 各学校の特色や強みを生かした取組を重点的に推進
 ○国指定事業を受けた高校の取組
 ○理数科設置校の科学的探究活動拡充
 ○先進的な科学技術を学ぶ学科の設置
 ○専門高校の学びの強みである実践的・体験的な学習活動の充実 等
- II 高校間連携や多様なパートナーとの連携による取組を推進
 ○県立高校の幅広い教育資源を活用し、学びの選択を拡大
 ○視野を広げ、学びの深化を図るための高大連携の推進 等
- III 地域の期待に応える魅力ある学校づくりの推進
 ○地域との連携組織の設置等により、魅力ある学校づくりの推進
 ○地域の特色や取組を生かした、地方創生に資する学科等の新設や進学指導の強化等による教育の充実
- IV ICTの活用による学びの保障、教育の充実(ICT教育日本一)
 ○個別最適化された学びの保障(コロナ対策等)、選択できる教科・科目の拡大、外部との連携・交流機会の拡大
- V 小規模な学校の活性化
 ○ICT活用→多様な科目の設置、外部との連携・交流機会の拡大
 ○スーパーティーチャーの活用による確かな学力の育成と教職員の資質向上等
- VI グローバルに活躍する人材の育成(英語教育日本一)
 ○英語教育日本一の取組により、広い視野と語学力の育成と海外進学等の推進
- VII 取組を推進するための環境整備
 ○ICT環境整備・充実
 ○県立学校施設長寿命化プランによる施設・設備の充実
 ○入試制度の改善を検討(全国募集枠の拡大、前・後期入試制度のあり方検討等)
 ○効果的な情報発信 等

主な取組(案)

- ①熊本スーパーハイスクール(KSH)構想(I、VII)
- ②先進的な科学技術やIT技術を学ぶ学科等の設置検討(I、III)
- ③国際バカロレア認定校・学科等の設置検討(I、III、VI)
- ④総合学科やその他の新たな学科等の設置検討(I、III)
- ⑤高大連携の推進(II)
- ⑥高校間連携による充実した多様な学びを可能にする「県立高校 One Team プロジェクト」(II、III、IV、V)
- ⑦「地域との連携による未来人材共育プロジェクト」(II、III、V)
- ⑧遠隔授業等による小規模校の教育の充実(III、IV、V)
- ⑨高校のICT教育日本一の具現化(I、III、IV、V)
- ⑩スーパーティーチャーの活用等による「進学サポートシステム」の構築、授業の質のさらなる向上(I~VI)
- ⑪少人数学級編制の検討(III、VII)
- ⑫学習者用パソコン(1人1台)導入、大型掲示装置、ネットワーク環境(無線LAN)の整備等(IV、VII)
- ⑬県立学校施設長寿命化プランによる施設・設備の充実(VII)
- ⑭入試制度のあり方の検討(VII)